

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）

「効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステム構築のための研究」

平成 28 年度 分担研究報告書

効率的な follow up system に関する研究

大分県における取り組みと成果についてー

研究分担者：本田浩一 大分大学医学部消化器内科 助教

研究要旨 大分県では主要都市（大分市、別府市、中津市）において検診陽性者への受診勧奨リーフレットの送付や肝炎検診陽性者・治療助成費受給者 MAP 作成、全県の診療所への患者説明用リーフレットの配布、薬局での肝炎シールの配布などを進めてきた。成果について評価するため、C 型肝炎治療費助成申請者や肝疾患相談センター相談者に対しアンケートや聞き取り調査を行った。肝炎リーフレットは肝炎治療の認知度を高めるため、一部の患者においては有効なツールと考えられた。また、診療所に配布したリーフレットの認知度のほうが高く、さらに受療まで至るにはかかりつけ医の役割が重要と考えられた。肝炎シールは普及に向けたさらなる取り組みが必要と考えられた。

A. 研究目的

B 型・C 型慢性肝炎は放置すると肝硬変、肝がんといった重篤な病態に進行する疾患である。平成 22 年に肝炎対策基本法が制定され、肝炎ウイルス無料検査や治療助成制度が始められたが、検診を受ける者が少ないことや、ウイルス検査が陽性であっても適切な治療に結びついていないことが問題となっている。佐賀県で確立された system を参考とし、検診でウイルス検査が陽性であったものが適切な治療を受けるようになるよう、大分県でも follow up system を進めてきた。今回、3 年間の取り組みにおける成果について明らかにする。

B. 研究方法

佐賀県で導入されている肝炎ウイルス検診

受検者と肝炎治療助成費受給者を匿名化後連結させる VPN 回線を利用した follow up system については、大分県での導入は困難であった。そのため、大分県の主要都市である大分市、別府市、中津市（3 市の人口総数は大分県全体の 57% を占める）における肝炎検診陽性者と肝炎治療助成費受給者居住地の郵便番号のみを抽出し、肝炎検診陽性者・肝炎治療助成費受給者 MAP を作成し、肝炎治療の地域差について検討を行った。また、2015 年 12 月に「大分県版 たたけ！肝炎リーフレット」を作成し、3 市における検診 HCV 抗体陽性者に郵送した。さらに、2016 年 1 月に「大分県版 たたけ！肝炎・かかりつけ医向けリーフレット」を作成し大分県内約 1000 の診療所に 10 部ずつ配布した。さらに、肝炎シールを薬剤手

帳に貼付してもらうよう、県内の一部の薬局に配布した。これらの成果について評価するため、2016年1月～10月まで、3市の保健所にC型肝炎治療費助成の申請に来た患者さんに対し、リーフレットやシールに対する認識あるいは治療を受けるようになった動機などについてアンケート調査を施行した。また、大分大学肝疾患相談センターへの相談者に対し、リーフレットを見たことがあるか聴取した。

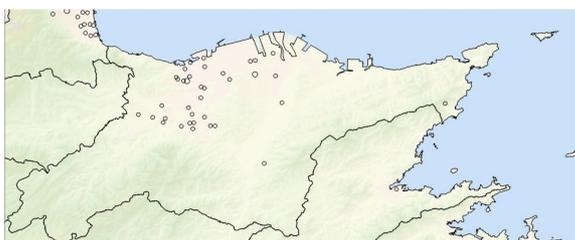


C. 研究結果

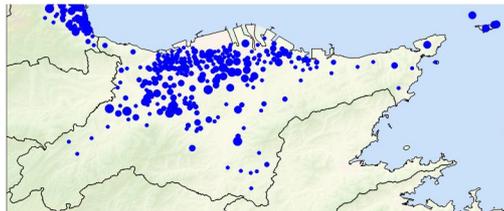
1. 肝炎検診陽性者・肝炎治療助成費受給者 MAP

大分市

HCV 抗体陽性者

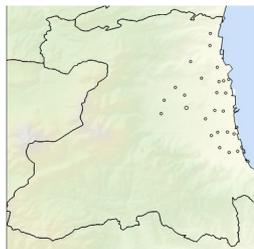


C型肝炎治療助成費受給者

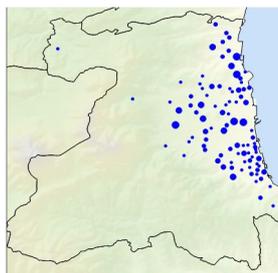


別府市

HCV 抗体陽性者

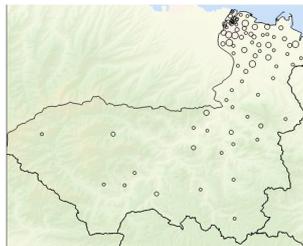


C型肝炎治療助成費受給者

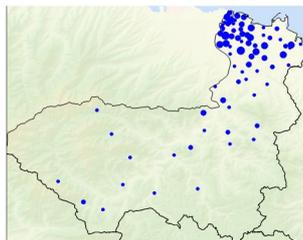


中津市

HCV 抗体陽性者



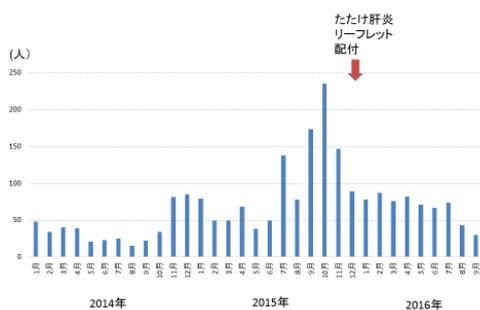
C型肝炎治療助成費受給者



大分市、別府市、中津市の HCV 抗体陽性者と C 型肝炎治療助成費受給者の分布はよく似ていた。B 型肝炎についても同様の結果が得られた。

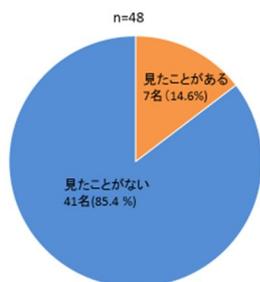
2. アンケート調査結果

大分県におけるC型肝炎治療費受給者数の推移



大分県における C 型肝炎治療費助成者はハーパーニー治療者が多かった 2015 年 10 月をピークとして減少傾向であった。

「たたけ！肝炎」リーフレットを見たことがあるか



調査期間2016年4月～10月、大分市、別府市、中津市

3 市におけるアンケート調査において「たたけ！肝炎」リーフレットについての認知度は 14.6% (7/48) であった。

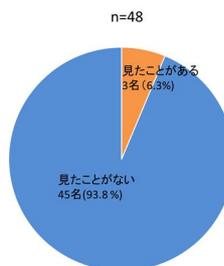
「たたけ！肝炎」リーフレットをどこで見たか



調査期間2016年4月～10月、大分市、別府市、中津市

「たたけ！肝炎」リーフレットはかかりつけ医からもらった者が 71.4% (5/7) であり、3 市で送付した患者は 14.3% (1/7) であった。

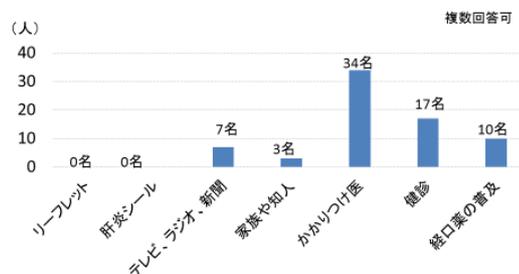
「肝炎シール」を見たことがあるか



調査期間2016年4月～10月、大分市、別府市、中津市

肝炎シールの認知度は 6.3% (3/48) であった。

肝炎治療を受けるきっかけは？



肝炎治療を受けるきっかけはかかりつけ医から勧められたという理由が最多であった。

大分大学肝疾患相談センターへの相談件数



2016年1月～11月の間に「たたけ！肝炎リーフレット」を見た後に、肝疾患相談センターに相談した人は計11名であった

肝炎リーフレット配布後の、肝疾患相談センターでの認知度調査において、リーフレット

認知度は9.6%(11/115)であった。

D. 考察

受給者・ウイルス検査陽性者 MAP 調査の結果から、大分県の主要都市においては肝炎治療の地域差はほとんどないと考えられた。しかし、大分県の都市部での調査であり、非都市部での状況については把握することができなかった。

C型肝炎治療費助成申請者へのアンケート調査から、「たたけ！肝炎」リーフレットについての認知度は14.6%であった。今回、抗体陽性者へ配布用およびかかりつけ医用の2種類のリーフレットを作成したが、アンケート調査より、後者のほうが受療者の認知度が高かった。C型肝炎治療を受けるきっかけとしては、かかりつけ医からの勧めが最多であり、肝炎リーフレット、新聞、テレビなど、患者へ情報を与えるツールにより、肝炎治療について伝えるだけでは、治療に結び付いていないのが現状であり、最終的に受療にまで進めるためには、かかりつけ医の役割が非常に重要であると考えられた。大分大学肝疾患相談センターでの調査において、2016年7月以降の相談者の肝炎リーフレット認知度は0%であり、このような情報提供ツールの持続性の問題点も明らかとなった。

過去に肝炎検査を受けたことがあっても、自身の結果の認知度が低いことも、問題となったおり、大分県独自の試みとして、薬局での肝炎シールの配布を進めているところであるが、今回の調査では、肝炎シールの認知度は6.3%程度であった。これは、肝炎シールの配布が一部の薬局に留まっていることや、

シール配布時の説明の煩雑さなどが理由と考えられる。今後は行政や薬局・薬剤師とのさらなる連携を検討している。

E. 結論

大分県の主要都市における受給者・ウイルス検査陽性者 MAP 調査において肝炎検査陽性者と受給者の分布はよく似ており、肝炎治療の地域差はほとんどないと考えられた。また、受療についてはかかりつけ医の役割が重要であり、かかりつけ医へのアプローチが必要と考えられた。さらに、肝炎シール普及のため、行政や薬局とのさらなる連携が必要と考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特になし